『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』を読んだことのある10代～50代の男女37名
調査期間	2025年10月15日～2025年10月16日 2025年11月4日 2025年11月20日 2025年12月3日 2025年12月31日 2026年1月14日 2026年2月4日 2026年2月18日 2026年3月4日 2026年4月8日 2026年4月29日 2026年5月6日 2026年5月27日 2026年6月10日 2026年6月24日 2026年7月8日 2026年7月29日 2026年8月12日 2026年8月26日 2026年9月10日 2026年9月23日 2026年10月10日 2026年10月24日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/karisomenotigiri/

■アンケート項目

Q1：年代と性別を教えて下さい。
Q2：『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』を実際に読んだ感想を教えて下さい。

Q1:年代と性別を教えて下さい。

10代男性	1人
10代女性	0人
20代男性	0人
20代女性	0人
30代男性	4人
30代女性	2人
40代男性	3人
40代女性	1人
50代男性	26人
50代女性	0人

Q2:『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』の感想を教えて下さい。

『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』1話～5話	序盤から主人公である絢子をとことん追い詰める展開があり、この作品の厳しい世界観がすぐに伝わってきました。家族までもが敵対してしまう環境の中で、絢子が必死に生きていく姿を見ると、こちらも応援したい気持ちがどんどん大きくなりました。そんな中、とある伯爵との出会いによって絢子の運命が変わりそうな展開を匂わせるので、さらに続きが気になりました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』1話～5話	第1話を読んで、絢子の境遇に心が痛くなりました。両親に遺産目当ての愛もない結婚を押し付けられて、夫の死後に巨額な借金を背負わされるのは辛かった。社会的な立場を失って、母親には勘当帰る場所もなくなる描写がとても切実です。使用人として働き始める場面では、屈辱と希望が入り混じる感情にぐっと引き込まれました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』1話～5話	本郷に騙されたような気がしました。というのも絢子との結婚生活に違和感を覚えたんですよね。そういう対象として絢子を見ていた割には、あまりにもあっさりと引き下がりすぎていましたから。多額の支度金まで用意したのです。絢子の反応が気に入らなかったとしても、一夜限りで終わるなんて普通はありえません。本郷からすれば、絢子との結婚生活を続ける意味はなかったのに、なぜ続けたのか。それは絢子の名前を使って借金をするためだったのです。本当にやられたなと感じました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』6話～10話	カツカツの実家を救うために、大きく年の離れた頭取と結婚させられるも、あっという間に亡くなってしまった挙げ句、膨大な借金まで背負わされた絢子が、女学校時代の友人からの紹介で働き先が見つかるも、悪い噂のせいで壮絶な嫌がらせにあっているところを、雄一郎がお達しという形で一蹴させるところにキュンと来ました。しかも、絢子には以前会ったことがあったことは知らせずに、あくまで仮初の契約として結婚を提案するある意味不器用さに、希望と大逆転する未来が見えた気がしました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』6話～10話	女の嫉妬心って恐ろしいですね。とはいえ、恋人を取られたわけでもなく、ともに使用人でありながらご主人様にちょっと自分よりも気にかけてもらっただけ。千代はなぜここまでひどいことをするのか。そしてヒロインもただ黙っているだけではない。反論する姿を見てると、もっと頑張れと思いました。というよりも雄一郎こそ頑張れ。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』6話～10話	嫌がらせに対して腹が立ちました。ちょっと気に入らなかっただけで、なぜここまでひどいことができるのか理解できません。本当に、こういうことはなくなってほしいです。気になったのは雄一郎と絢子の関係です。絢子は雄一郎のことを知らないようですが、雄一郎の方はそうではない様子。回想シーンに絢子が登場していましたし、嫌がらせを止めようとするほどなので、何かしらのつな

	がりがあったのだと思います。二人の過去に何があったのか、とても気になりました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』11話～15話	本当に千代は華族様が憎くて仕方がない様子ですね。あたりがめちゃくちゃ強い感じで見ていてイライラが募りますね。でも一方でこういうキャラは物語に一人はいて欲しいという気持ちもあり俄然目が離せないことは確かです。嫌がらせの質が本当に陰湿で胸が苦しくなってきますが、それに打ち勝つ絢子の姿も見たいというのがこの作品の面白さですね。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』11話～15話	急な展開に驚いています。雄一郎が絢子のことを気にかけていたのは理解していましたが、それでも使用人になって間もない絢子に求婚するとは思いませんでした。ほとんど接点がないため、絢子がどんな女性なのかよくわかりません。それにもかかわらず求婚するその行動力には驚かされました。気特に気になったのは、雄一郎と絢子が外出した場面です。何気なく食べていたアイスクリンでしたが、雄一郎の様子に違和感を感じました。もしかすると、幼い頃に二人で一緒にアイスクリンを食べたことがあるのかもしれませんね。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』16話～20話	この作品は本当に絢子に対してみんな厳しすぎます。元華族だからという理由以外の何かがあるような気がして、すごく気持ちが苛まれそうです。そんな時、新たな使用人の子がやってきて物語がさらに面白くなっていくので注目ですね。最初はいい人そうな雰囲気を装っていても結局うちに秘めた黒い部分が露わになったりと展開がとにかく絢子にとってすごく辛い流れになっていくかもしれませんし、その部分を噛み締めながら見るとより絢子のことを応援したい気持ちが強まります。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』16話～20話	絢子に味方ができたようで、ほっとしました。というのも、高杉家では絢子は完全にアウェーの立場だったからです。特に同年代の女性使用人たちからすると、なぜ絢子が選ばれるのと妬みを感じたのではないでしょうか。さらに言えば、絢子は使用人時代に嫌がらせを受けていたのです。良好な関係を築くのは難しいと思っていました。それだけに華の存在は大きく、上手くやっていけそうで安心しました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』21話～25話	本当にこの物語は登場人物たちが嫌な人ばかりで嫌になりますね。ですが、そのことがきっかけとなり主人公である絢子の魅力が増大していくのである種結果オーライですね。作中での、莉津子さんの存在もこの作品のストーリーをより面白いものに昇華させてくれているように思うので俄然目離せません。自分の言動によって想定外の展開になる流れはかなり笑えます。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』21話～25話	そもそも少し怪しいとは思っていたんですよね。3億円も借金があるのに、なぜ使用人の仕事を紹介するのか。使用人では明らかにこの額は返済できませんから。気が沈んでいて判断能力が鈍っている絢子を狙ったとしか思えません。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』21話～25話	莉律子は本作で唯一の良心だと思っていました。だからこそ、この展開は驚きです。とはいえ、莉律子の気持ちも理解できなくはありません。行く当てのなかった絢子を救えるだけでなく、莉律子にも雄一郎に会えるというメリットがありました。まさに一石二鳥の素晴らしい案と言えるでしょう。しかし蓋を開けてみたら、最悪の事態になっていたのです。嫌味の一つも言いたくなるだろうと感じました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』26話	莉律子の納得していない様子が印象的でした。聡明な莉律子のことです。冷静な状態であれば、自分が悪いことをしたと十分に理解できたでしょう。でも今は、絢子のことを自分の想い人を奪った憎い女としか思えないのでしょうね。悪いことをしたとは全く思っていないようですし、残念な女性だなって感じました。ただ、今回の一件は絢子の心に大きな傷を与えたように思います。雄一郎から優しく接してもらえていただけに、ショックは大きなものになったのではないでしょうか。このダメージから立ち直れるのか、注目したいです。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』26話～28話	絢子が元気になってよかったです。というか、第一話から今までで一番生き生きとしていたのではないしょうか。放心状態から戻ってくる事ができて何よりです。気になるのは、絢子の作っている贈り物が雄一郎に伝わるかどうかです。絢子も歪な人生を送ってきましたが、雄一郎もなかなかのもの。過去の体験からお金が愛情の指標になっているだけに、気持ちが伝わるか不安に感じました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は	絢子の初々しい感じがとても良いですね。絢子は普段心中を表に出そうとしていないだけに、この反応はなかなか見られません。こういう笑顔も出来るんだなとほっこりしましたし、そんな絢子だか

愛される～』29話	らこそ雄一郎も笑顔になってしまったのだと思います。気になったのは絢子が既視感を覚えたことです。気のせいなのか、過去に会ったことがあるのか。実際のところどうなのか知りたくなりました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』30話	やっと二人の心が通じ合ったように思えました。絢子は自分の感情を表に出すのが苦手で、それが二人の関係をぎこちなくしていたんです。でも、絢子が本当の気持ちを伝えられたことで、ようやく夫婦らしい関係になれたのではないかと感じました。気になったのは、雄一郎が絢子の縫った刺繍を見ていた場面です。プレゼントをもらえたこと自体嬉しいことだとは思いますが、それだけではないように思えます。この刺繍を見て雄一郎は何を感じたのか、知りたくなりました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』31話	ここにきて、まだ実家が祟っているのかと衝撃を受けました。絢子は実家で酷い扱いを受けていましたが、今は雄一郎のおかげで幸せに暮らしています。これで絢子も幸せになれそうだと感じていただけに、このショックは強烈でした。本郷の元へ嫁いでいなかったら、このフラッシュバックはなかったわけですから。実家に対する怒りが沸々とわいてきました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』32話～33話	絢子と華の会話シーンが楽しめました。まるで現代のガールズトークみたいだったとでもいいましょうか。そして、その二人の会話を聞いてしまっていた雄一郎の反応も可愛くて良かったです。一方、絢子が母に対し、どのように対応するのか気になりました。雄一郎は絢子の味方になって話を詰めてくれてはいます。でも絢子が母の言いなりになってしまっては、話はまとまりません。母の呪縛に打ち勝って、自分の意志を伝えることが出来るのかどうか注目したいです。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』34話	絢子が母に対してビシっと言えて、ホッとしました。絢子が絢子らしくなってきたところで、母の登場です。また元の絢子に戻ってしまうのかと心配しました。それだけに、母に対してビシっと言えたことがすごく嬉しかったです。一方、絢子の母が気がかりです。あの場では、何も言えずにいました。でも、納得したというよりも、咄嗟のことで言い返せなかったという感じが強いんですよね。帰宅した頃には冷静さを取り戻しているでしょうし、絢子に対して仕返し的なものを考えているかもしれません。大人しく引き下がるような人ではないと思うので、絢子の母が今後どう動くのか注目したいです。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』35話	絢子の変化が微笑ましいですね。まだ雄一郎と夜の夫婦生活は送っていませんけど、時間の問題ではないでしょうか。この調子だと本郷から植え付けられたトラウマも払拭できそうですし、はやく結ばれて欲しいものです。一方で、雄一郎も気になります。愛する雄一郎とのお出掛けということで、絢子は普段以上に身なりを意識して整えてきました。その姿が雄一郎にどのような影響を与えるのか注目したいです。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』36話	今回のデートは二人に良い影響を与えたように思います。特に、雄一郎の心には強く響いたのではないでしょうか。というのも、雄一郎は絢子の姿を見た瞬間、見惚れている様子がうかがえました。また、デートの終わり際には絢子の内面の美しさも感じ取れたように思います。雄一郎は所用を思い出したといって離れましたけど、絢子のために何かしてあげようとしているのは明白です。二人の関係はさらに深まったように感じられ、心が温まりました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』37話～38話	二人が結ばれて良かったです。本郷によって植え付けられたトラウマにより、絢子はずっと雄一郎を受け入れられないのではと心配していました。今ならカウンセリングとかもあるでしょうけど、この時代ならそういうものはありませんし。それだけに、二人が本当の意味での夫婦になれたことは喜ばしいです。あとは、これがずっと続くかどうかですね。今回は雄一郎を受けいれることができましたけど、ずっとそうであるとは限りません。それほど本郷から植え付けられたトラウマは深刻なものでしたから。これからの二人の様子に注目したいと思います。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』39話～40話	二人の関係の進展には、思わずほっこりさせられました。中でも雄一郎の変化は印象的で、これまでの彼からは想像できない言動に、驚きと戸惑いを感じるほどです。それだけ絢子のことを深く想っているのだと伝わってきました。一方で、手紙の内容も気になるところです。あれほど強い想いで結ばれていた二人がぎこちない関係になってしまったのですから、そこには重要な内容が記されていたはず。一体何が書かれていたのか、注目したいです。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』41	雄一郎の背景が明らかになり、胸のつかえが下りたように感じました。雄一郎は伯爵家を継ぐほどの高貴な身分にあります。一般的には苦労とは無縁のように思われる立場であるだけに、時折見せる物憂げな表情に違和感を覚えていました。しかし、その過去を知ったことで、そうした表情

話	の理由にも納得することができました。一方で、最後に見せた絢子の行動には驚かされました。その気持ちは理解できるものの、これまでの絢子であれば、なかなか行動に移すことはできなかったのではないかと感じます。それだけ雄一郎の力になりたい、そして深く想っているのだという気持ちが伝わってきて、心が温かくなりました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』42話	絢子の姿が、非常に健気で愛らしく感じられました。雄一郎を大切にしたいという思いが、弟妹たちへの接し方にも自然と表れていたように思います。雄一郎から聞いていた情報は必ずしも的確とは言えなかったものの、それでもなお良好な関係を築こうと努める姿勢には、思わず心が和みました。一方で、百合子の反応には気になるものがあります。絢子に対して、どこか警戒心や複雑な感情を抱いたようにも見受けられました。場合によっては、雄一郎だけでなく弟に対しても影響を及ぼす存在なのではないかと捉えた可能性も考えられます。そうした感情を抱いた百合子が今後どのような行動を取るのか、気になりました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』43話～44話	武や百合子が、想像以上に雄一郎を慕っていたことには驚かされました。これまでの雄一郎からは、弟妹たちを歓迎しているように見えません。ですが、武の思い出話を聞くと、雄一郎がしっかり兄をしていたことが伝わってきました。ホタルを見に連れて行ってあげるなど、何気ないエピソードではありますが、その優しさにほっこりさせられました。だからこそ、現在の雄一郎の態度には違和感を覚えます。武の話からは、二人の関係は本来かなり良好なものだったように感じられました。それなのに、帰宅後に武と接する雄一郎はどこか淡々としていて、まるで他人行儀にも見えます。昔は確かに近かったはずなのに、なぜ今はこんなにも距離ができてしまっているのか。そこには、まだ明かされていない事情や感情のすれ違いがあるのではないかと感じさせられました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』45話	百合子の様子が気になりました。雄一郎と一緒にホタルを見に行けるようになったのですから、本来であれば武のように手放しで喜んでいても不思議ではありません。実際、これまでの流れを考えれば、百合子にとっても待ち望んでいた展開だったはずです。それにもかかわらず、彼女は浮かない表情を浮かべていました。その姿を見る限り、単純に喜べない何らかの感情を抱えているように思えます。もしかすると、雄一郎の気持ちを動かしたのが絢子だったことに複雑な思いを抱いているのかもしれません。いずれにせよ、あの反応は見過ごせませんでした。問題が解決したように見えて、百合子の心にはまだ整理できていない思いが残っているのでしょう。そのため、このまますんなりとはいかず、もう一波乱ありそうだと感じました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』46話	大人びた言動が目立つ百合子ですが、この場面ではまだまだ子どもらしい一面が見えていたように感じました。百合子からすれば、自分の大切な居場所に突然誰かが入り込んできたような感覚だったのかもしれません。まるで雄一郎と武を絢子に奪われてしまったような気持ちになっていたとしても不思議ではないでしょう。その様子を見る限り、百合子と絢子が本当の意味で打ち解けるまでには、まだ時間がかかりそうです。あるいは、お互いの距離を一気に縮めるような出来事やきっかけが必要になるのかもしれませんね。一方で気になるのは、そんな百合子を見つめていた女性の存在です。あの意味深な視線からは、何やら不穏な思惑を抱いているような印象を受けました。百合子が現在、寂しさや不満を抱えている状況だからこそ、付け入る隙があるとも言えます。もしその女性が何かを企んでいるのであれば、精神的に揺れている百合子を利用しようと考えていてもおかしくありません。この女性が百合子を巻き込み、物語をさらにかき乱していくのではないかと不安を覚えました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』47話	莉律子の行動に不安を感じます。以前、莉律子は絢子と雄一郎の関係に口を出して揉めたことがありました。となれば、これ以上二人の関係に口を挟もうとしないものです。それにもかかわらず、莉律子は絢子について話したいことがあると意味深な言葉を口にしました。その様子からすると、絢子にとって不利になり得る情報を掴んだ可能性が高そうです。一体何を知り、雄一郎に何を伝えようとしているのか、非常に気になるところでした。一方で、もう一つ気になるのが百合子の存在です。ただでさえ百合子は絢子に対して複雑な感情を抱えており、心が揺れ動いている状態でした。そんなタイミングで莉律子が接触してきたとなれば、その言葉に感化されてしまう可能性は十分に考えられます。もし莉律子が百合子の不満や嫉妬心を利用するようなことがあれば、百合子と絢子の関係はさらに悪化しかねません。二人の溝がますます深まってしまうのではないかと心配になりました。

『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』48話～49話	百合子は暴走してしまいましたが、これは仕方ないことだと感じました。女性は百合子だけだったことから、雄一郎や武から大切にされてきたであろうことは想像できます。しかし、絢子が現れたことで、これまで自分に向けられていた愛情を奪われてしまいました。不満を感じるのは当然でしょう。今回はその不満を利用された形でしたが、いずれこうなることは避けられなかったと思います。一方で、百合子を追いかけた絢子のことが気になりました。今の百合子は感情的になっており、その原因である絢子が何を言っても無駄のように思えます。むしろ、関係がさらにこじれてしまうのではないかと心配になりました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』50話	百合子が絢子に心を開いてくれたようで、何よりでした。二人きりで落ち着いて、ゆっくり話すことができたのが良かったのでしょうね。百合子も絢子のことを認めてくれたようですし、家族揃って蛍を見ることも出来てホっとしました。一方で、莉律子の存在が気になります。あの不満気な様子からすると、このまま大人しく引き下がってくれるとは思えません。次はどのような手を打ってくるのか注目したいです。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』51話～52話	百合子の甘えっぷりには驚きました。あれだけ絢子のことを毛嫌いしていた人と同一人物とは思えない程です。色々ありましたけど、それが二人の距離を縮めることになったのでしょうし、結果的に見れば良かったんだなって感じました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』53話	キクの洞察力に驚かされました。ただダンスの技術を教えるだけでなく、メンタルケアまでしてしまうのは見事という他ありません。華ぐらい絢子と身近な距離にいるのであれば、わかります。しかし、そこまで親しくないキクがよくぞそこまで察することが出来たものだと感心しました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』54話～55話	絢子の雄一郎を想う気持ちが素敵でした。だからこそ、雄一郎も絢子をより愛しく感じてしまうんでしょうね。色々あった二人ですけど、今はとても幸せそうでほっこりしました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』56話	予想以上に酷い状態でした。雄一郎の両親にも、思うところはあったのでしょう。しかし、雄一郎はすでに結婚しています。となれば、両親は不満を抱いていようとも絢子との結婚を認めるしかない。そう考えていただけに、今回の展開には驚かされました。
『かりそめの契り～後家の花嫁は愛される～』57話～58話	絢子に声を掛けてきた人物が気になります。これまでの経緯から、絢子を嫌っていることは間違いありません。その人物とは一体誰なのか。そしてどのような用件で絢子に声を掛けてきたのか、注目したいです。

漫画全巻の部屋
by ㈱グリュックス